

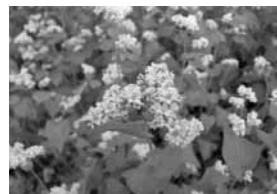
3年連続審査員特別賞受賞 第7回中国地区番組コンクール



▲受賞された山本さん

日本ケーブルテレビ連盟が行った第7回中国地区番組コンクールでジョーホー奥出雲の山本誠子さんが半年間かけ取材、制作した横田小そばを取り上げた番組「小そばに魅せられた人々～横田小そば 復活への軌跡～」が報道社会派ドキュメンタリー部門の審査員特別賞を受賞しました。

審査では幻の在来種と言われた横田小そばの復活にむけて動く様々な人たちの想いや活動が丁寧に取材されていること、映像の美しさなどが評価されました。



ジョーホー奥出雲としては3年連続で審査員特別賞の受賞となりました。

勇壮な武者行列を披露 三沢の要害山山城祭



▲同日に行われた三沢池お水取り神事の様子

三沢地区の要害山において、戦国武将三沢氏の遺徳を偲ぶ山城祭が、5月28日に三沢城跡保存会の主催で行われました。

三沢小学校児童や三沢幼稚園園児らが、手作りの甲冑を身にまとい、麓のみざわの館から山頂まで武者行列を披露しました。また、山頂では、児童たちによる戦の出陣式「三献の儀」が行われました。

続いて、山開き神事が執り行われ、登山者の安全と地域の発展を祈願しました。

神事後、三沢城跡保存会の田部英年会長が「730年前からの所縁を今に引き継いでこられたのも、地域の方の理解や協力があったこと。歴史あるこの要害山を守り続けたい」とあいさつされ、参加者一同は気持ちをひとつにしました。

和牛改良の成果を競う 奥出雲町肉用子牛共進会



▲首席の「はなみつ」号

今年第1回目の奥出雲町肉用子牛共進会が、6月2日、仁多中央家畜集合所において開催されました。

町内9地区から32頭の出品があり、審査員によって個体審査、比較審査が行われました。

審査結果は次のとおりです。

特選賞	各号	出品者(地区)
首席	はなみつ	福田 保夫(横田)
2席	ゆずは	野沢 逸男(八川)
3席	はる	森桜 俊治(三成)
4席	あきびより	泰中 満(阿井)
5席	きみ	野原万寿老(馬木)
団体優勝		三成支部

昔ながらの田植えを体験 一味同心塾田植え交流会



▲華やかな田植え囃子

5月27日、阿井地区の一味同心塾前の水田において、米づくり委員会主催の田植え交流会が開催されました。

田植神事後、内谷田植え囃子保存会による華やかな田植え囃子が披露され、会場は大いに賑わいました。

田植えでは、島根リハビリテーション学院の1年生などが参加し、地元の方による指導を受けてから水田に入りました。

声を掛け合い、協力しながら田植えを行ったことであっという間に終えることができました。

自己記録に挑戦! 奥出雲町小学校連合体育大会



▲最後の力を振り絞って走る

第13回奥出雲町小学校連合体育大会が5月19日、三成運動公園陸上競技場で開催されました。町内の小学校から3年生以上の児童が参加し、それぞれの競技に臨みました。

競技前、児童は緊張した表情を見せていましたが、これまでの成果を発揮するため気持ちを切り替えて全力を尽くしていました。

また、各小学校のテント前や応援席からは、出場している児童の名前を呼びながら熱い声援が送られ、出場者の頑張りにつながっていました。

教育委員会 教育長の退任・就任

5月24日付けをもって、安部隆教育長が任期満了となり、新しい教育長に、3月24日の第1回奥出雲町議会において承認された塔村俊介氏(三成)が就任されました。

就任のあいさつ

教育長 塔村俊介



この度、町議会におきましてご同意を賜り、5月25日付で教育長に就任いたしました。新教育委員会制度の初代教育長として、日本一の教育、子育て、社会教育のまちを目指して誠心誠意頑張ります。

私たちは今、十数年後には現在の職業の半数がなくなる、子どもの数はさらに半分になるという、これまで経験したことがない激しい変化の時代を生きていると感じています。教育委員会の役割は、人生を切り拓ける力を持ち、町の将来を担う人間を輩出し、子育て世代を呼び込める町にしていこうと考えています。

まず、最重要で取り組むべきは、学びに対する意欲の向上であり、頑張る力をつけるということです。どのような進路をとる、職業につくとしても、その経験は必ず助けになります。勉強でがんばるもよし、部活動、スポーツでがんばるもよし、趣味でがんばるもよし。そのような頑張りを受け、切磋琢磨できる環境を整え、引き出して参ります。

また、大学入試改革および小学校での英語教育などの大きな変化、就学前教育の重要性の高まりの中、幼稚園から小中学校、横田高校まで一貫したビジョンをつくるとともに、いじめのない、不登校の悩みに寄り添い、障がい者に配慮した町に責任をもってしていかなければならないと考えています。一方で、健康長寿社会を迎え、文化・スポーツ・芸術の振興や国際交流にもこれまで以上に力を入れ、生涯を通じて、挑戦できる環境づくりに取り組んで参ります。

皆さんの意見を聞き、議論をしながら、子どもたち、保護者、町民を第一の考えのもと、総合計画を始めとする計画を着実に進めるとともに、世の中が大きく変わろうとしている中、結論ありきではなく、議論すべきものは議論していきたいと考えています。

最後に、教育を通じて、どの世代も一生学び楽しく暮らせる奥出雲町を皆様と力を合わせて実現していく所存でありますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

退任のあいさつ

前教育長 安部 隆



この度、5月24日をもって教育長を退任させていただくことになりました。平成21年5月から2期8年の任期でありました。

仕事は、`楽に 楽しく チョッピリ` いい仕事。をモットーに取り組みましたが、`チョッピリ`いい仕事になったかどうかは、余人の判断に任せたいと思います。

着任当初は、教育委員会も教育課だけでしたが、現在は教育総務課、子育て支援課、社会教育課の3課となり、所帯もずいぶん大きくなりました。

主に取り組んできたことは、学校再編や校舎建設、多くの人の参加を得て取り組んだ授業改善・学力向上があります。なお、たたら操業体験学習を軸にしたふるさと学習の充実、吾妻山合同キャンプや合同修学旅行等に発展していきました。

次に、幼保一元化を構想した「幼稚園」の具現化があります。出産祝い金制度の創設や病児保育施設の建設・運営など、幼児教育環境の充実が図られてきたことと思います。

社会教育では、奥出雲の宝物を掘り起こす事業として、中国地方で初めて認定された国の重要文化的景観の「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」や「出雲國たたら風土記一鉄づくり千年が生んだ物語」として認定された日本遺産登録があげられます。その他、スポーツ分野においても、オリンピック選手を輩出するなど競技力において全国レベルを維持し、文化活動に係る事業も、多くの町民が豊かな文化体験を展開されてきました。

どの場にも額にも汗し、熱心に取り組んでくださるひと、冗談を言いながらも手を休めず、取り組みを前に進めてくださるひと、ないないといながらも、豊かな自然や施設、本当に必要なものはちゃんとある奥出雲、出雲神話のふるさととして位置づけられた揺るぎない歴史と文化を持つ奥出雲に支えられた日々でした。

旧教育委員会制度県内最後の教育長として、その職を終えさせていただくにあたり、皆様への感謝の言葉といたします。

東京五輪ホッケー競技国内キャンプ インドを誘致国に絞る



▲仁多庁舎を訪れたチャングサン総領事(左から4人目)

5月19日、奥出雲町2020東京オリンピック国内キャンプ招致委員会が横田庁舎で開催され、事前調査や情報を基に誘致国をインドに選定し、ホストタウン登録申請書を提出することで合意しました。

翌週24日には、山陰インド協会の行事に出席された在大阪・神戸インド総領事のT.アムストロング・チャングサン氏を奥出雲町に招き、三成公園ホッケー場などを視察していただき、インドホッケーチームの誘致を目指す方針を伝えました。

チャングサン総領事は「奥出雲は緑あふれる美しい田舎町。奥出雲町のホッケーの歴史を学ぶことができた。インド政府などに連絡・調整を取り、協力したい」と話されました。